

**Q** 5G時代のビジネスパーソンに求められる条件やスキルとは？



**A** 「専門性」を持つことが組織の中で求められる

テレワークが主流になる時代は、もうすぐそこまで来ています。ナスダックに上場している米国の不動産仲介会社eXp Realtyの場合、従業員の大半は、営業マンや建設業者、不動産エージェンといった「現場のプロ」。彼らはそれぞれの持ち場で活動し、バーチャルな空間で

アバターを操作して会議や研修を行っています。こうした働き方はこれからのトレンドになるでしょう。

組織のあり方が、プロ同士がコラボレートしてひとつの目標を達成する「プロジェクトチーム制」に移行するなか、専門性を持たない「社内の調整役」のようなホワイトカラーは、次第にその存在意義を問われるようになっていきます。「会社に行くのが仕事」のような働き方は、もはや成立しない時代になったのです。



**Q** 自分の職場でも5Gが使えるようになる？

**A** 持ち運べる基地局で手軽に5G環境を構築

総務省は、大手通信キャリア各社に5Gの電波を割り当てる際に、国土の隅々までエリアが構築されるような条件を課しています。

また、5Gでは特定のエリアや建物内という限定的な環境において、誰もが「通信事業者になれる」という仕

組みも用意しています。この仕組みは「ローカル5G」と呼ばれ、工場、商業施設、病院、オフィス、マンションなどでの活用が見込まれています。

さまざまな現場で手軽に5G環境を構築できるように、「持ち運びできる基地局」も、通信キャリア各社が開発を急いでいるところです。これらが普及すれば、リモートワークはさらに加速することになるでしょう。どこからでも働けるようになる分、現場で作業をする人々の付加価値は高まっていきます。

**Q** 個人情報の保護について注意すべき点は？

**A** プライバシーは「自分で守る」時代

スマートフォン・PCの指紋認証やフェイスロックに抵抗を感じる人も減ってきていると思われ、生体情報を事業者提供に提供する心理的負荷が以前と比べると格段に下がっています。生体情報に限らず、ネットバンキングを経由した資産に関する情報、SNSへの書き込み、位



置情報など、膨大なデータがあなたの端末から事業者の手に渡っています。こうしたパーソナルデータは、従来は「知らないうちに抜き取られているもの」というイメージがありましたが、個人情報保護の厳格化やパーソナルデータの活用が進む昨今、データの管理はユーザー本人に委ねられることとなります。誰に対して、どういう目的ならパーソナルデータを提供してもいいのか、一人ひとりが自ら理解を深め、判断しなければならない時代なのです。